

『3. リー R U N』の思い出

又年 龜山 敦

1. 嶺岡林道

○ 嶺岡林道とは、房総半島 安房勝山～鴨川までの全長33km未舗装の静かな林道である。

5月5日 子供の日。私は、約束の時間である。AM:7:00 に部屋到着。天気は、素晴らしい快晴でこの日のサイクリングの素晴らしいを物語っているかの様でした。しかし、これはあくまでも様であったのを私は、気付いていなかったのです。相棒の

酒井君が30分待てませんでした。そこで親切な私は彼をむかえに彼の下宿へ……。玄関をあけて、彼の部屋を見るといつもの様に鍵がかけてありません。そして扉を開けると、私の下宿の冷蔵庫を開けた時の様な、冷気と暗やみが私を襲ってくるではありませんか。どうです、彼もまだ寝ていたのです。

そこで酒井を起すと、

酒井：「悪いなあ、俺、今朝4時に寝たんや。」

隙の中で、長野君は、なるほどサイクリングの前には、余り寝ないのか。と、私が意味かどうかわかりませんが「はし」無言で彼、おはなす。

「行くかうか？」
「はい、いいです。」

して、彼の冷蔵庫から抜け出し、川崎～榎津フェリ
ーと、国道127号線を走って、1:00に中房勝山到着。

勝山を出発すると、楽な舗装道に出た。勾配もほとんど
なく風景も相当よらしい。しかしこの様な幸福感を味わっている
時に、何かと、ハプニングを起したがる人間がいるらしい。

突然 酒井が「待てくれ」と言った。こゝを楽な道で「何か
なんだ」と私が不思議そうに振り返ると、酒井曰く「足こい
た。」純心でか弱い私は、この時、住友川のE.V.で
47階から一気に一階まで降りる、スットする感じを味わった
のです。それで休息。そしてさらに走る。いくら走っても楽な
で「なんだん銭い」^ハは不思議に思い始めますが、また金
銭の方が疑念より多かったせいか、55に進むと、南にある
はずの山が北にある。そこで私達は始めの道を間違
った事に気付いたのでした。やむを得ず、少し先にあった分枝
路を左にとり北上すると道がどんどん険しくなるではありませんか。
はやる心を押し返してとんとん進むとついに、本当に道に
出た様です。そして直進すると谷と下り。がっかり。
「また登らねば、」^Wと考えると下でゆくと、なんと道が二又に分
かれている。そこで土地の人に聞いてみたのだがわからない。
仕方がないのでやま甚力(試験で金殺した?)で
右側の道をとると、山に登り始めました。

峠で休んでいると、恐ろしい砂利道が山奥へ向かって続いているのです。はて？この道は何か乍ら見ると、何とそれが待望の嶺岡林道でした。この道の恐ろしい砂利の厚さ、そして薄暗くなにかフランケンシュタインでも出て来そうな雰囲気、やっと親満を自横りあがったとたん四暗剣単騎を振り込んだ様な状況でした。そして、この道の苦しい事は、とても言葉では言いつくせません。

夕中が空回り、たまに車が横を通るときは、内心ほっとして足をつき息を荒げ、汗をダラダラ流し、標高300m前後の林道でも十分な内容の林道でした。

しかし、林道の次ぎ目でまた迷って自衛隊駐屯地に出くす始末。林道半分位しか走っていないのに、時刻は、4時位になってしまいました。嶺岡山麓向付近では押しも出る、は、おんよう様は、どんどん低くなるやでほんまにまいりましたわ。

やがて下りになりました。

「あ、海が見えるぞ。」

と親満の言葉、

日は、すでに暮れかかっています。

二人は、その薄暮が来た海へ向って黙々と、何処かへ向かいました。

尚、1980年に行なわれた「リエントリーング」の私の成績は、ラス、酒井氏は、ラス前、でした。

この結果を冷静に分析に見れば、この嶺園林道における二匹の迷い子の子猫ちゃんは十分に予想出来た事の様です。

私 この次からサイクルときは、磁石でもむてこうかな。

嶺園林道地図

太線：本当の道

(矢付 細線)：私と酒井が通った道

